

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 30

事業所番号	2691200105		
法人名	社会福祉法人 不動園		
事業所名	宇治やすらぎの家 1階		
所在地	京都府宇治市宇治戸ノ内22-6		
自己評価作成日	平成30年2月10日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム宇治やすらぎの家は、数多くの観光名所や商店街に程近くとも環境に恵まれた地域にあり開設して6年になります。施設理念「育む」は法人理念の「共感と信頼」を育むことであると、職員間の共通認識とチームワークを大切にしています。利用者の自分なりの日課を過ごしていただくために、毎朝の全体ミーティングや毎月のケース会議を実施、併設する小規模多機能型施設との連携も積極的に行い、希望があれば、お天気の良い日はなるべく散歩に出かけたりドライブに出かけたりできる機会をつくれるようにし、少しでも季節の移り変わりや賑わいを感じていただけるように取り組んでいます。行事の際にはご家族の方にもお声掛けさせていただき、ご利用者、ご家族と共に過ごす時間を少しでも持つていただけるように心掛けております。地域のボランティアの方も来ていただき、歌・音楽・朗読等、交流をはかっています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 野の花		
所在地	京都市左京区南禅寺下河原町1番地		
訪問調査日	平成30年2月27日		

JR宇治駅のそば、住宅街に建つ開設7年になる2ユニットのグループホーム、小規模多機能型居宅介護事業所との併設である。季節ごとのドライブや外出、ボランティアによるイベントを楽しみながら、日常は室内でボーリング、あやとり、言葉遊び、読書や歌等、利用者は自由に自分なりの暮らしをしている。漱石ファンの利用者が漱石博物館を訪問、福岡から婿と孫が成人式の晴れ姿を見せに来てくれたり、残存能力の維持のため新聞記事を楽しみながら書き写している人、年末には自身の友人たちに100枚の年賀状を書く人、100歳のお祝いに賞状と銀杯を授与され満面笑顔の人、職員より味付けのうまい人、こうしたサプライズが利用者の暮らしを彩っている。開設以来利用者本位の運営に努力してきており、現在自発的に勉強する向上心の高い職員が多いという職員体制の充実と理念・目標の設定と実践により、かなり高いレベルの利用者の暮らしが実現している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念「共感と信頼」に沿って、事業者の理念「育む」を掲げ、職員、ご利用者、ご家族との信頼関係を育み、よりよい事業者を目指して取り組んでいる。	法人理念「共感と信頼」を踏まえて事業所の理念「育む」を掲げ、年度ごとに確認すると共に職員の話し合いによりグループホームの目標「笑顔で対応、ムダを省く」を策定、朝ミーティングや日常的に常に話し合い、実践を目指している。管理者は職員が常に笑顔で利用者とコミュニケーションし、思いを聞き取るようとしていることが共感と信頼への道だと考えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の地蔵盆に招待していただいたり、地域の福祉委員の方たちを中心にもちつきを行い、近くの保育園児との交流をはかっている。地域のボランティアの方が、歌や演奏、朗読に来てくれる。中学生の福祉体験の受け入れも行き交流を増やしている。	利用者は町内会の地蔵盆や敬老会に参加している。事業所開催の餅つきに地域の人に参加している。バイオリン、ピアノ、大正琴、ギター等の生演奏や朗読劇等、地域のボランティアが来訪、利用者を楽しませてくれる。保育園児が来訪、子どもたちの歌や踊りに利用者は大喜びである。近くの中学生の福祉体験実習を受け入れている。	利用者にとってグループホームは自宅であり、ここはどんな地域なのか、どんな人が住んでいるのか、郵便局やスーパーはどこにあるのか等を知り、散歩に行き、馴染みの場所ができたり、出会う人と親しくなり会話したり等、利用者の地域生活を支援すること、グループホームとしては認知症や介護の専門家としての活動に取り組むこと、以上の2点が望まれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の総会に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。事業報告を行い、サービス向上に活かせるように意見交換を行っている。	利用者、家族、菟道学区福祉委員、菟道第2学区福祉委員、中宇治地域包括支援センター、市介護保険課が委員となり、隔月に開催、議事録を残している。利用状況、職員研修、事故・ヒヤリハット、行事等を報告の後意見交換している。委員から事故・ヒヤリハットへのアドバイス等の意見をもらい、改善している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者の方に運営推進会議への参加と、必要に応じ介護保険課と連携をはかっている。	市の担当者には報告や相談を怠らず連携をとっている。介護保険外の利用料を今回改定することになり、市に相談している。介護相談員を受け入れ、毎月2人が来訪、利用者から話を聞いている。地域ケア会議に参加、情報交換している。認知症ネットワークに協力している。市のグループホーム連絡会で情報交換や研修に参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯のため玄関は施錠しているが、内部から開けることができる。ユニットのドアは利用者の安全のため一時的に施錠することもあるが、毎朝のミーティングで、疑問点を話し合い、不適切なケアをなくし、研修等で身体拘束をしないケアを実践できるようにしている。	「身体拘束をしないケア」を契約書に明記、職員研修を毎年実施している。職員は身体拘束11項目、やむを得ず拘束する場合の3要件、スピーチロックを認識している。居室でセンサーを設置している利用者の家族から同意をとっている。エレベーターは施錠していない。玄関ドア、ユニットのドアは日中は内側から開くことのできる状態にしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人として虐待防止委員会を立ち上げ、利用者の権利擁護、虐待防止に注意をはらい、防止に努めている。毎朝のミーティングで各フロアの疑問点を話し合い、不適切なケアをなくす取り組みをしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を方もおられる。後見人の方とのつながりを大切にし、活用できるように心がけている。制度についての研修会は今後の課題としている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設内容など、十分に説明し、理解納得をはかり、契約後にも話ができるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段から、家族が面会に来た時には職員が話しかけ、訪問しやすい雰囲気になるように努めている。年に2回は家族会を開き、2ヶ月に1回の運営推進会議、月に1回の介護相談員来所にて意見や要望を聞き、運営に反映させるように努めている。	家族の面会は毎日来る人もあり、少ない人は介護計画の更新時で年2回、全く来ない人もいる。ホームの行事である餅つきに数人参加している。家族には隔月に行事報告を書いた広報誌『やすらぎだより』と運営推進会議の議事録を送付している。家族会は今年度は介護保険外の利用料金改定の説明会を3回実施している。「メールで連絡がほしい」という家族の意見に対応している。	家族は職員と共に利用者を支え、グループホームのサービスを向上させる大事な力である。できるだけホームに足を運び、自分の利用者のことだけでなく、他の利用者にも関心をもち、ホームの様子を見て、ホームを良くするために、家族として支援するにはどんなことができるか、という視点に立つことが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に1回、人事調書として、各職員の意見を理事長に届けるようになっている。また月に1回の会議で職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	駅近くという好条件もあり、採用時に勤務、3年後法人内のいずれかの部署に配置するという事業所としての役割を果たしている。そのため職員数に余裕がある。事業所内のすべての部署から集まり、毎日朝ミーティングを実施、相互の報告と議論をしている。毎月のグループホーム会議はカンファレンスと年間プログラムによる内部研修をしている。職員は自己評価をまとめ、年2回管理者の面談を受け、意見交換している。職員の意見は人間関係の悩みが多いため、相互にフランクに話し合うことを推奨している。管理者としては話しやすい雰囲気をつくることに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	状況に応じて、必要な対応ができるように努めている。定期的に、意見や提案を聞く機会を設け、給与、労働時間、やりがいなど、働きやすい職場環境作り・条件整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	福祉経験のない方でも、福祉に情熱をお持ちの方であれば採用し、資格などの習得も推奨している。また内部・外部研修にも出来る限り参加していただくように努力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新規のご入居者がサービスを利用されるときは、その事業所に訪問させていただき、ご本人の状態はもちろん、情報交換を通じてネットワーク作りを心がけている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の面接においては利用中のサービス先や家庭を可能な限り訪問し、本人の思いや要望を傾聴し、安心を得られるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	随時、電話での相談や施設見学等を受け付け、要望や不安を傾聴し良好な関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談、施設見学の際にサービスの説明を行い、必要に応じて他のサービス相談先を紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	法人理念「共感と信頼」、事業所理念「育む」をモットーに支え合う暮らしが送れるように心掛けている。朝の全体会議やケース会議、職員で情報共有し統一されたケアへの取り組みをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事や家族会への参加を通じて、情報共有するなど、共にご本人を支える関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室へ行かれたり、友人が来訪されたり、関係の深いお寺よりお盆の法要にいられたりとの関係が途切れないよう支援に努めている。	夏目漱石が好きという利用者の希望で家族に依頼して漱石博物館を訪問している。利用者が利用していた美容室に同行し、馴染みの店長さんにカットしてもらっている。教師だった利用者の教え子が会いに来てくれる。同窓会の案内があり、利用者と同行している。毎年祇園祭を見ていたという利用者と鉢を見物している。仏壇の亡夫に毎日ごはんとお茶を供えている利用者の居室に馴染みのお寺からお盆の法要に来てくれる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の関わりの中で、職員が橋渡し役となれるよう雰囲気作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じてサービスの案内、また相談や支援を行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、思いや意向の把握に努め、会議で話し合っている。	利用開始時に主任とケアマネジャーが利用者と家族に面談、介護や医療の情報を収集、暮らし方の思いを聴取している。「自由に過ごしたい。自分でできることはしたい」等、聞いている人もいるもの聞くことのできていない利用者も多い。京都、宇治、奈良等の出身地、農家、兄弟姉妹が多い等生家のこと、9歳から住み込みで働く、会社勤務、賄の仕事等現役時代の仕事、夫は会社員、子どもは男女1人ずつ等の結婚生活、趣味は読書等々、利用者の生活歴を記録している。	利用者がグループホームでどんな暮らしをしたいのか、聴取が困難な人からもありのままの思いを聞き取ること、無理な場合は家族も入れてサービス担当者会議をすること、以上が望まれる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご本人、ご家族からの聞き取り、入居前にサービス利用されている方は担当者から情報を集めたり、サービスの利用先に訪問したりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりや日誌、毎朝の会議などで情報を共有し、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議の場にご家族、主治医の参加は難しい現状ですが、日々の関わりの中や来所時、往診時に要望や意見をうかがい、介護計画を作成するように努めている。	ケアマネジャーがアセスメントをし、介護計画を作成している。身体介護のみならず、暮らしのなかの楽しみの項目を入れている。ただ「レクに誘う」「外出」「散歩」「ドライブ」等、多くの利用者に通の項目が多く、利用者ごとの個別性が少ない。また「趣味を生かす」「活動的な生活」等、具体的な項目がある。介護記録は時間ごとの利用者の様子を書き、介護計画の実施記録ではない。モニタリングは「実施状況」「目標達成度」「利用者・家族の満足度」「今後の方針」の項目で点検しているものの記録はコメントで書かれていない。	介護計画は利用者ごとに個別で具体的であること、介護記録は介護計画を実施した際の利用者の発言や表情を、拒否があったときはその要因を書き、モニタリングの根拠となるようにすること、モニタリングは点検した内容をコメントで書くこと、以上の3点が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランをもとケアを行い、介護支援経過記録に記録をしている。朝のミーティングや申し送りの充実をはかり、状態変化があれば見直しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて柔軟な対応ができるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地蔵盆などの地域のイベントに参加したり、地域のスーパーへ買い物に出かけたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に1回かかりつけ医が往診に来てくれている。本人、家族の希望により専門医を受診される方もいる。	ほとんどの利用者は協力医療機関である服部医院の医師をかかりつけ医としており、毎月往診を受けている。従来のかかりつけ医に家族同行で受診している人もいる。認知症は専門医に受診している。歯科は訪問歯科医を利用している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設する施設の看護師や月2回の往診時の同行看護師と情報を共有し、処置やアドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院に情報提供を行っている。退院時にはカンファレンスに出席している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者には事前面接時に説明。家族、医療、スタッフ、関係者で十分に協議して支援内容を決めていく。	利用者の重度化や終末期でのグループホームとしての対応について、契約時にグループホームでできることとできないことを利用者と家族に説明している。医療が必要になった場合は当然入院、そうでない場合はその時点で医師を交えて十分話し合うことを伝えている。特養に申し込みをしている家族もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故・緊急時の対応マニュアルに沿った対応ができるよう取り組み、応急手当等の実践力の向上に努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、避難訓練を実施している。	消防署の協力を得て火事に対する避難訓練を年2回実施している。水害や地震、夜間帯の訓練はしていない。備蓄やハザードマップは備えていない。職員の緊急連絡網を作っている。	避難訓練は職員の身に付くように、地震、水害、夜間帯も含めて年数回は実施すること、備蓄を備え、ハザードマップにより危険箇所を認識しておくこと、災害時の法人内相互協力体制の規定を作成すること、以上の3点が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の人格を尊重した言葉使いや対応を心掛けている。朝のミーティングや会議にて意識の向上に努めている。	利用者への対応と言葉遣いは利用者の人格を尊重したものであるように心掛け、特に幼児扱いを禁止している。暮らしの中で利用者に自己選択してもらうように、職員はまず利用者に気持ちを聞いてから行動するようにしている。意思表示の困難な人には表情やそれまでの生活習慣等から判断している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を表すことが苦手な方には、選択肢を用意したり、表すことが困難な方は支援者で話し合いを行うよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自己決定の支援を大切にし、どう過ごされるか尋ねながら、ご本人のペースを大切に支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の洗濯、整容になるべく本人にしてみたいできないところを職員がサポートするように心がけ、外出時に化粧をすること等行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時間が楽しいものになるように、職員と一緒に食卓を囲み、会話を楽しむ雰囲気作りをしている。	朝食は毎日手作り、昼食は週2回手作り、あとの5回は「いちばん弁当」から、夕食は毎日「花満」から、調理済みのものが配達、いずれもカロリー値、栄養バランスの点検をしている。利用者の意見は職員が毎回記録、配達先に見せ、改善してもらっている。手作りの日は利用者の意見を聞き、職員が献立を立て調理している。どの献立も利用者の食べ慣れた和風の家庭食である。誕生日にはその人のリクエスト食である。認知症による食事摂取に課題のある人には職員が丁寧に介助している。リクライニングの人もホールと一緒に食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要に応じて食事摂取量は記録している。個人の心身の状態に応じた食事形態や飲み物を提供している。栄養バランスを考えた食事を心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声掛け、介助実施している。週1回程度歯科往診受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者一人ひとりの状況に応じて声かけや誘導を行っており、トイレでの排泄を支援している。排泄パターンを把握し、できる限りトイレでの排泄を支援している。	約3分の1の人は排泄の自立をしており、尿意があり、自身でトイレに行っている。あとの人はリハパン、パットを使用、排泄パターンを把握している職員が声掛け誘導してトイレでの排泄を支援している。なるべく薬に頼らない排便のために水分提供、食材の工夫、運動等に取り組んでいる。一部の人は服用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量や栄養バランスに気を配っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に週2回以上の入浴機会を確保し希望に合わせて入浴できるようにしている。本人用のシャンプー、ボディソープを用意している方もいる。	浴室は少し広め、浴槽も大きめである。ADLによっては併設の小規模多機能型居宅介護事業所にあるリフト浴で入浴を支援している。毎週2回の入浴、「入りたい」という希望の人には週3回を支援している。好みのシャンプーやボディソープを持っている人もいる。季節にはゆず湯やしょうぶ湯を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、活動的に過ごしていただき、生活のリズムを整え安眠につながるよう心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬手帳を管理し、内服薬一覧表を作成し、どのような薬を服用されているのかわかるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出や外食、レクリエーションなどにやり、楽しみが感じていただけるよう、また気分転換がはかれるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	個々の希望には応じきれないが、可能な範囲で対応している。初詣、花見、紅葉狩り等のドライブだけではなく植物園や買い物などにも出かけている。	車椅子の人も含めて外に出て外気に当たり、日光浴をし、ホームの周りを歩いたり、近くの駅まで散歩したりしている。宇治田原や太陽が丘や嵐山での紅葉狩り、アジサイやハスの花見物、京都タワー、伏見稲荷等々のドライブは季節ごとに行っている。アメ、洋服、下着等を買いたいという希望があれば個別に対応して出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の同意のもと、事業所で管理させていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望により、相手側に許可を得た上で自由に電話をしてもらっている。年賀状や手紙のやりとりも支援させていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事の写真や季節感のある制作品、花などを飾り、居心地のよい空間づくりに努めている。	ユニットのドアを開けるとキッチン付きの居間兼食堂、大きな窓から陽光が入っている。食卓の回りに椅子、少し離れてソファコーナーがある。壁際の本棚に雑誌や写真集、CDのケース、マガジンラックに新聞や雑誌等、家庭的な雰囲気がある。壁には「凧と羽子板」、「大きな鬼の顔」等、季節ごとに利用者と制作した貼り絵を掛けている。大きなカレンダーは利用者が塗り絵をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置いたスペースを設けたり、居室で過ごしたり、ゆったりと思い思いに過ごせるような環境を整備している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物や使い慣れたものをもって来ていただけるようにしている。	居室は洋間、ベッドとクローゼットを備えており、窓が大きく明るい。利用者はチェスト、机、椅子、衣装ケース、衣装かけ、テレビ等、使い慣れたものを持ち込んでいる。壁には誕生日に職員からプレゼントされた寄せ書きの色紙、自作の塗り絵、家族の写真、孫の成人式の写真、風景写真等を掛けている。机の上に飾っている可愛いマスコット、愛読書、愛用のノート、筆記具等がその人らしさを醸し出している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態把握に努め、状態に合わせた環境作りに努めている。		